


団体名	NPO法人ユースコミュニティー	活動タイトル	ひとり親家庭など、生活困窮世帯の高校生への学習支援事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
<p>● 望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>経済格差、貧困の連鎖、子どもの貧困が叫ばれる中、子どもの将来が、家庭の経済的な状況によって狭められ、社会で活躍する機会を失ってしまうことは、その子どものみならず、社会にとっても大きな損失です。</p> <p>そこで、子ども達が生まれ育った状況に左右されず、学ぶことのできる環境や多様な大人たちと触れ合う機会を地域に広げていく必要があります。</p> <p>そして、子ども達がおかれている困難は地域によって様々な特色があります。</p> <p>地域特有の課題を地域の支援者で解決していく社会の実現が必要です。</p>		<p>研修の末、塾講師検定資格に合格</p>	
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>「地域の課題を地域からの支援者を増やし、解決を目指す」ことをミッションに掲げています。</p> <p>子どもの学習支援事業において</p> <p>1) 地元地域から支援者を育てる、2) 地域の問題を地域の人に伝えていく</p> <p>3) 地域と連携して問題の解決をめざす、4) 有償スタッフにも、支援者スピリッツを育成することを大切にしています。</p> <p>そして、今は支援対象の子ども達が、将来大人になった時、今度は自ら支援者となり、困っている人を助けられるような人になってほしいとの願いを込めて活動しています。</p>			
<p>● 団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な広報スキームを確立し、地域からの支援者が一層集結。さらに支援者のスキル・経験が充実し、同時にそれをマネジメントする人材が育成される 事業で活用する教室や教材等について、地域の個人商店・生協・企業等からの協力が得られる関係性を広げる 多様な資金調達の見込みを確立する。地域からの会費や寄付の充実を目指し、事業拡大や子ども達の支援拡大につなげられる財政力を備える 今までの活動で培ったノウハウを共有できる仕組みを作り、次世代スタッフに継承。「拠点リーダー」が育っていく土壌をつくる 			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>主に中学生を対象にしてきた私たちの学習支援事業において、高校生を対象とした学習支援を昨年度に続いて取り組みました。</p> <p>子どもの貧困が可視化され、官民あがりの学習支援事業が行われています。しかしながら、そのほとんどが高校進学までの支援にとどまっております。高校生世代に対する学習や相談支援が乏しいことが新たな課題になっています。そこで、将来の自立に重要な時期である高校生の支援を充実させることを目的に、教室やオンライン上での学習サポート、さらには活用できる奨学金制度の情報提供など（高校の進路相談ではサポートが不足がちな）ソーシャル面を重視した相談活動を実施しました。高校生の学力とメンタルを支え、気軽に相談しながら過ごせる居場所作りの側面も大事にして取り組みました。</p> <p>助成期間（2020年9月～2021年12月）において、東京ではほとんどの時期が緊急事態宣言や蔓延防止措置が発令され、公民館の使用制限によって事業の影響がありました。そんな中でもオンラインを併用して活動を継続し、困難な時期だからこそ支援を切らさず、福祉制度や地域のフードパントリーへの繋ぎも積極的に行いました。また助成終了後の活動資金の確保のため、アルムナイに特化したマンスリー会員を獲得しました。</p>			<p>コロナに翻弄された一年間でしたが、ほとんどの利用者は安定して教室を利用できました。成績面でも数値上で確認できる効果を出すことができました。また大学を受験した利用者は、第一志望ではなかった生徒もいますが、皆合格することができました。2021年12月現在、18名の高校生が在籍し、毎週1～2回教室を利用しています。そしてコロナ禍の中、ZOOMを使用しているオンライン学習やラインのオープンチャットを使っている質問ブースの設置など、従来の教室活動にとまらないサポートも実現することができました。相談活動においては、奨学金などの活用について、友好団体（キッズドア、しんぐるマザーズフォーラム）が作成しているパンフレットを活用させていただき、進学と生活に必要な情報をしっかりと伝えました。また学習を支えるサポーター研修については、一年目に取り組みなかった「塾講師検定」資格に連動したスタッフ研修を実施し、15名の合格者を得ることができました。資金調達については、団体全体を巻き込むことを意識し、教室状況が見えるよう、まずは教室ごとの専用ブログの運用を開始しました。さらに過去のボランティアOBのアルムナイマンスリーサポーター制度をつくり、一定収入が入るようになったことから、8月から土曜日のクラスを公民館から民間施設（テラッコ）に移転。より安定した開催ができるようになりました。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>高校生の学習支援においては、生徒ごとにニーズと目標が異なっており、一人ひとりの学習計画とその到達度をしっかり管理することの重要性を痛感し、それを運用するためにクラウドやビジネスチャット（SLACK）を利用している団体内での情報共有の仕組みづくりを確立しました。学習面では、英検対策のニーズも高いことから、その方面に明るいスタッフのもと、合格のためのカリキュラムなど、効果的な指導ノウハウが取得できたと感じています。そうした取り組みをする中、「スタディーサプリ」で有名な（株）ルートパートナーズさんから、スタサブのコンテンツを利用した困窮家庭の学習支援の協働を提案され、21年の10月から試験的に運用を開始。効果的なメソッドや提携内容について摺合せをしています（教室が無い日の子ども達の学びに有益であると期待しています）。また、研修・学習会によって、ソーシャルワーク（相談活動）において必要な福祉・奨学金の知識、オンライン学習支援のマニュアル化。さらには資金調達についても広報委員会をつくり、実践を積むことで経験を得ながら、団体独自の成功パターンを見出しつつあります。</p>			<p>「子どもの貧困」が社会問題として認知され、（大学無償化等の）支援制度が進んできています。私たちが活動している大田区でも、大学入学をサポートする給付型奨学金制度が開始されています。しかしながら、こうした制度が必要な家庭に情報が十分届いていないという課題があります。事実、私たちの学習支援を利用している高校生の声からも、高校の進路指導は、成績・入試面の助言はあっても、福祉面の情報サポートはほとんど得られないとの意見があります。また新しく開始された大学入試においても、情報の少なさから、効果的な対策のために予備校等を利用しないと差がついてしまうという教育格差を一層助長しています。大学入学後の支援制度は充実してきていますが、大学進学を支援する制度やサポートはまだ不十分なのが実状です。内閣府の資料でも、家庭の状況と大学進学率の圧倒的差が指摘され、実態調査と支援を進めていくことが政策課題になっています。今後は助成事業で培った知見をいかし、地域の協力を得ながら、自治体の課題として検討してもらおうよう働きかけ、独自の支援制度の拡充に繋がりたいと思っています。</p>	
			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
			<p>この1年間の活動を通じて</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援スキームのブラッシュアップ 生徒一人ひとりの目標達成への伴走 困窮家庭への支援制度へのつなぎ 団体の地域性や特性にマッチした支援者の獲得についての方向性の理解
			■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
			<p>利用している高校生にとって、学習支援だけでなく、何でも気軽に相談できる居場所として安心感を持っていることが感じられます。高校生にとって、親や学校の先生以外の大人との関りは重要で、多様な価値観に触れながら成長している実感があります。事業の中身を充実させるため、ICT教育企業との協働も開始し、新たな支援コンテンツの提供等、今後の発展を目指していきます。</p>	